

第1回コンパクトなまちづくり大賞 総合戦略部門 コンパクトなまちづくり推進協議会会長賞 受賞者：西脇市（兵庫県）

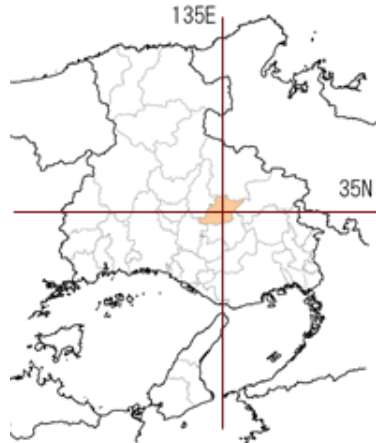
受賞理由：西脇市では、まちの現況及び将来動向を丁寧に分析し、誘導施策を明確にするため、人口減少が顕著な中心市街地と新興住宅エリアを核とした2つの都市機能誘導区域とそれを取り囲む居住誘導区域を設定している。将来人口減も踏まえ、限られた区域を中心とした誘導施策に取り組むとしている点や地域資源である「播州織」をキーワードにしたファッション都市構想を策定し産業施策と連携したまちづくりを進めている点が評価されました。

兵庫県西脇市は、東経 135 度と北緯 35 度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置し、兵庫県のほぼ中央部にあります。

先染織物「播州織」の産地として発展してきたほか、豊かな自然にも恵まれています。また、特産の1つには、黒田庄和牛があり、その9割は最高級の神戸ビーフとして出荷されています。

全国高校駅伝大会で歴代2位・8回の優勝を誇る「西脇工業高校」があり、2020年の東京オリンピックでもホストタウンになるなど、スポーツが盛んなまちでもあります。

また、現在放送中のNHK大河ドラマ「いだてんー東京オリンピック断片」のポスターデザインは、西脇市出身の世界的美術家・横尾忠則氏が担当しています。



【都市の課題】

- 都市のスポンジ化
 - ・空き地・空き家・空き店舗・空き工場の増加
- 人口構成の偏在の拡大
 - ・若い世代の人口減少、少子高齢化の進行
- 都市機能、拠点施設の欠如

課題解決のための施策（キーワード）



課題の多いまちなか（中心市街地）においては、西脇市の地場産業である「播州織」をキーワードとして、産業施策と連携したまちづくりを展開しています。

取組成果としては、まちなか（中心市街地）に設けたコワーキングスペース「CONCENT（コンセント）」周辺に立地する「播州織工房館」や空き店舗等を会場に、移住してきたデザイナーや播州織商社等も巻き込んだ播州織の生地のマルシェ「第1回播州織産地博覧会（播博ーばんぱくー）」が開催され、会場となった沿道約50mの区間に5,000人の方が訪れました。今年5月に開催された2回目では、規模が拡大されたこともあり市内外から6,000人が訪れるにぎわいとなりました。



西脇市の 目指すべき都市構造 ー 2拠点の形成とつながるまちー

地域の現状やこの先も持続可能なまちであり続けるため、市街化区域（市域の約5%で、人口の約半数が居住）の東西にそれぞれ、居住誘導区域（市街化区域の約50%）、都市機能誘導区域（市街化区域の約17%）を設定しています。

この区域を中心に、**西の拠点**と**東の拠点**の2拠点を形成し、拠点と周辺の地域が交通網でつながれたまちを目指します。

西の拠点には、市内外から人が集まり、施設コンセプトである「人つどい 人つながり 人はぐくむ 交流の場」を実現しています。多世代の交流を可能とする複合施設の相乗効果を実感しており、この運営ノウハウを東の拠点の形成にも活かしていきたいと考えています。

